

シンポジウム

日本における福祉国家の原型

——格差をめぐる医療・社会政策——

現在、日本では「福祉国家の危機」が叫ばれ、社会保障の改革が求められている。その一方で貧困や格差の拡大が進みつつあるという現実もある。このシンポジウムでは、現在の格差をめぐる医療・社会政策について考えるために、福祉国家の原型が成立した20世紀前半に焦点をあてる。

■高岡裕之(関西学院大学)

20世紀日本における「社会国家」化

■鈴木晃仁(慶應義塾大学)

戦前期東京における精神医療と社会階層

—王子脳病院の患者記録の分析から

■玉井金五(大阪市立大学)・杉田菜穂(同志社大学)

日本社会政策論史上における社会衛生学の位置

—暉峻義等の所説をめぐる

会場 大阪市立大学文化交流センター・ホール
(大阪駅前第2ビル6階)

日時 2012年3月9日13:00▶17:00

主催：大阪市立大学経済学研究科

共催：医療・社会・環境研究会